

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所このみ		公表日		令和7年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11		・法令に順守したスペースを確保している。	・1部屋に固まる傾向があり狭く感じる事があるため、作業室等も含めて使用することでスペースを確保していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	2	・法令で必要とされる配置数を確保している。	・基準は満たしているが、長期休みの場合は職員が少ないと感じるときがある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	1	・全館バリアフリー、手すり、点字ブロック、オストメイト対応トイレ、シャワー室等の設備がある。	・状況に応じて、その都度過ごしやすい環境設定を心掛けていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		・毎日清掃を行っている。清掃の際には、次亜塩素酸水での消毒を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11		・必要に応じて個室を使用することが出来るようになっている。	・個室を利用されている場合は、子どもの状態の把握に努めていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11		・職員間で話し合う機会を設け、支援内容の振り返り、検討を実施している。	・PDCAサイクルを意識して日頃から支援にあたっていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		・保護者の皆様に評価していただき、意向を把握し改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		・打ち合わせや会議等を通し、職員間で話し合う機会を設け、支援内容について話し合っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	11		・評価結果を業務改善につなげていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11		・外部研修や、法人内での研修に参加し、職員の質の向上を図っている。	・今後も継続的に研修に参加し、職員の質の向上に努めていきたい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		・支援プログラムを作成し、HPにて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11		・半年に一度の見直しを行い、子どもの成長に合わせた支援計画を立てている。またその都度会議を行い、より良い支援が提供できるようにしている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		・職員間で話し合う機会を設け、より良い支援を目指して情報共有を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		・職員間で個別支援計画を共有し、日々確認をし合いながら支援にあたっている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11		・独自のアセスメントツールを使用している。	・定期的にあセスメントの見直しを実施していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		・放課後等デイサービスガイドラインに沿った支援となるよう、個別支援計画を作成している。	・子どもの発達に合わせ、5領域にの視点に基づいた支援計画を作成していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		・その日の活動内容や長期休暇中の活動プログラムをチームで話し合い検討している。	・活動内容が固定化されつつある為、更なる工夫は必要かと思われる。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	・一人ひとりに合わせ、自立課題などに取り組んでいます。また各々の発達、ニーズに応じた活動に取り組んでいる。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11		・一人ひとりの特性に応じて、個別や集団での活動内容を計画に盛り込んでいる。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11		・支援開始前に打ち合わせを行い、その日の任務分担の確認を行っている。	・簡単で良いので、朝の打ち合わせ時に流れの確認ができるが良い。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11		・支援終了後には、打ち合わせを行い、その日の支援を振り返る機会を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11		・毎日の支援記録の記入を行っている。また、記録中にも振り返りを行い、必要に応じて支援内容の検証・改善を行っている。	・記入漏れが出ないように、各職員が自覚をもって取り組んでいく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11		・半年に一度のモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	11		・身体を使った遊びや創作活動など、さまざまな活動を組み合わせながら支援にあたっている。	・地域交流の機会は「CONOMIのじかん」などのイベントへの参加を促していく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11		・参加の有無の自己決定や、活動内容やおやつなど、複数あるものの中から自己選択する場を設けている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11		・サービス担当者会議には、自発管だけでなく、日頃からこどもとよく関わっている児童指導員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	1	・必要に応じて、関係機関と連携を図っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11		・保護者の方からの情報や、学校から配布される年間行事予定や月ごとの下校時間を確認しながら調整している。	・正確な送迎時間の確認を徹底していきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11		・相談支援事業所を通じて、情報共有に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	1	・学校で開催される移行支援会議に参加し、支援内容等の情報を共有している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	2	・必要に応じて、児童発達支援センターとの連携を図っていく。	・児童発達支援センターより受けた助言等は、職員間で情報を共有していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	2	・今年は「CONOMIのじかん」を開催し、地域の方々や近隣の保育園に通う子ども達と交流する機会を設けた。	・今後も地域の方々との交流を目的として企画をしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		・お子様のお迎え時や連絡帳を通して、活動内容や様子をお知らせしている。	・引き続き、連絡帳や口頭にてお子様の様子を保護者の皆様にお伝えしていく。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	4		・保護者の皆様が参加できる研修会の実施など、相談できる場の提供を検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11		・利用方法、利用者負担について、重要事項説明書を提示して契約時に説明を行っている。日常的に分からないことなどがあれば、個別相談にも応じている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11		・半年に1度懇談会を実施し、ご家族の意向を確認する機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11		・半年に1度懇談会を実施し、支援内容の説明を行っています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11		・保護者から悩み等の相談があった場合は、できる限りの助言と支援を行うよう努めている。	・よりの確かな助言と支援が出来るよう、更なる情報・知識を得る努力が必要と思われる。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	5	6		・「CONOMIのじかん」を活用し、保護者同士が交流する機会を設けることが出来ないか、検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		・事業所内に意見箱を設置、事業所に苦情受付・解決責任者を設けている。いただいた苦情に対しては、迅速かつ適切に対応している。	・迅速かつ適切な対応に努める。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11		・令和6年度にHPをリニューアルし、定期的に子どもの活動の様子が閲覧できるようになった。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		・個人情報が記載された書類は鍵付きの書庫に保管してある。また、契約時にも説明を行った「業務上、知り得た利用者又はその家族に関する個人情報を漏らすことがないよう」職員には周知している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11		・写真や絵を使用し、視覚的に情報を伝えるよう工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11		・「CONOMIのじかん」を開催し、地域の方々にもこのみを知ってもらう機会を設けた。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		・各マニュアルは策定している。また利用契約時、個別懇談時に確認してもらっている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11		・各曜日ごとに、避難訓練を実施し全児童が訓練に参加する機会を設けた。 ・法人内でBCPの研修を実施し、実地訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10	1	・契約時に、健康状況、服薬等について確認をしている。またその都度変更があった場合にも確認を行い周知している。	・子ども一人ひとりの服薬内容をしっかり把握していく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	2	・契約時にアレルギーについて保護者に確認をしている。おやつ時や食事提供時（希望者のみ）には、アレルギーに十分に留意し対応している。	・現時点では、対象者がいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		・安全計画を作成し、安全管理に努めている。また、毎年見直しを実施している。	・職員間での周知を行うとともに、子どもたちが安全に活動に参加できるよう、環境や活動内容に配慮していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		・安全に活動に参加できるよう、活動内容を工夫している。	・玄関入り口に安全計画を設置するなど、いつでも閲覧できるようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		・事案が発生した場合はヒヤリハット報告書を速やかに作成し周知することで、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		・虐待防止委員会の設置や、法人内で虐待防止研修を年に1回実施している。また2か月に1度「虐待の芽チェックリスト」を記入し、振り返りの機会を設けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11		・身体拘束は行わずに支援できるよう対応を行っているが、クールダウンの際に両手を持って誘導するケースもある。保護者には懇談会時など、十分に説明し、同意書を得ている。また、支援計画にも記載している。		